

AIWFF2011 ニュースレター

9月8日

木曜日

あいち男女共同参画財団
企画協働課内
電話 (052)962-2520
http://www.aiwff.com

明日・明後日 チケット情報

売行き状況
○余裕有、△残少、×完売

▼9月9日(金)
○「ヘッドレッサー」
○「HANAMI」
○「大奥」

○「放浪記」
○「さようならUR」
○「漁師と妻」

▼9月10日(土)
○「牛と一緒に7泊8日」
△「武士の家計簿」
○「キッズ・オールライト」

○「沈黙の春を生きて」
○「ブッダ・マウンテン」
○「ヘッドレッサー」

＝東日本大震災復興支援企画＝

会場での募金、温かい支援が

映画祭最終日は9月11日。この日は、東北各地に痛ましい爪痕を残した大震災からちょうど半年の節目にあたります。今年の映画祭では震災犠牲者の哀悼を祈るとともに、映画祭参加の皆様と、被災地の一日も早い復興に向け支援の輪を広げようと、応援プログラムを企画しました。映画祭



会期を通じ、ウイルホールロビー、大会議室出入り口に募金箱を設置。『被災地の復興支援にご協力を!!』との呼び掛けに、映画を見終わった皆さんが次々と募金。温かい支援が続きまし

た。また被災のため愛知県に転居された皆さんが映画で少しでも元気を取り戻していただければと、広く関係の皆さまに映画無料招待の声掛けを行っております。また1階交流サロンでは東北各県の観光紹介とともに、郵便局ふるさと小包受注会として東北各県名産品販売を開催。買った品物が自宅に届き、手

＝「東北をお買い物で応援」も盛況＝



ぶらで帰れるとあって大賑わいです。被災地の活性化には現地の物産の購入や、観光にお出掛けいただくことが何よりの近道です。映画の後はショッピングで現地の活性化、応援しましょう!!

11日日曜日、映画祭のクロージングには被災前に気仙沼などで撮影がおこなわれた「春との旅」主演の仲代達矢さんが来場。舞台あいさつの後、映画上映後には現地への思いを語ります。是非お出掛けを!

9・11 (日) 仲代達矢さん来場!!

主演映画上映
被災地ロケ作品
『春との旅』
14:40～
舞台挨拶のあと、映画終了後には、被災地応援トークがあります。



ゲストトーク速報

浜野監督、羽田監督登場

映画祭恒例のゲストトークが今年も始まりました。

普段、めったに聞けない監督の話が生で聞けるとあって、熱心なファンが多く待つ中、各監督が登場。映画製作にこめた想いを両監督が予定時間を越え熱心に説明。会場の熱気をいち早くお伝えます。

▼「百合子、ダスヴィダーニヤ」 浜野佐知監督

映画祭オープニングを飾る本作の上映が終わると、浜野佐知監督と主演の菜葉菜さん、一十三一さんが登場。

監督は「芳子という人物と出会い、知れば知るほど

皆さんに知って欲しいと願っていた。しかし私の芳子と百合子のイメージとぴったり合う女優さんがなかなかいなかった。」と芳子と百合子への思いの強さと十三年間の苦労を告白。芳子役、菜葉菜さんは「芳子の人間的魅力に惹かれぜひやってみよう。」と一十三一さんも、「即決で決めていただきこのチャンスぜひやらせていただきたかった」と役作りへの気持ちの強さを語った。主演の二方は監督との意気もぴったりで、まさにはまり役。

また監督は「映画の舞台は昔だが、かつて自分らしく生き、互いを魂で愛し合い魂で向き合った百合子や芳子という人間がいた、ということを知りたい。」と作品に対する思いと共に、「できるならまた二人に出演してもらいたい。」と、和気藹々とした雰囲気の中コメント。



▼「遥かなるふるさと-旅順・大連-」 羽田澄子監督

羽田監督の作品は、これまで映画祭に9作品が上映されており、今回4年ぶりの登場。



少女時代を旅順で過ごし、長い間旅順を撮りたいと願っていたが、なかなか望みが叶わず、「2009年の全面解放により、撮影ができるようになり、このドキュメンタリー映画を制作することができて非常に嬉しい」と喜びを語りました。今後の映画製作については、「人間は色々な経験をし、歩いているうちに問題にぶつかる。ぶつかる問題に対して自分ができること、それが映画製作だと考えているので、どのような映画を制作するかという見通しはない」と述べた。撮影時の健康状態や、現地で自分の住んでいた

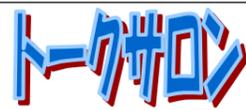
家に気安く招き入れてもらった時の状況など、質問にも分かりやすく説明。最後に、「この映画製作を終えて、やっと作れたという開放感がある、関心を持って見てくださる人がいて嬉しい。旅順・大連に縁のあった方が多く、日本との関係を改めて実感できた」と感慨を述べた。

▼「樹氷のよるめき」 吉田喜重監督、岡田茉莉子さん

上映に先立ち、吉田喜重監督と主演の岡田茉莉子さんが舞台挨拶。吉田監督は本作のテーマである、「女性の視点から男性を見直



す事の重要性」を語った。岡田さんは、雪山でのロケや共演者とのエピソードを語り、女優生活60年間の支援への感謝と今後のより一層の活躍を誓い、あいさつを締めくくった。



語り手: 浜野佐知監督
聞き手: 日比野幸子(あいち国際映画祭東京事務局代表)

映画祭3回のトークサロンの初日は『百合子、ダスヴィダーニヤ』浜野佐知監督が登場。



監督がこの作品の原作に出会ったのは今から15年以上前。「知り合いの作家からの紹介だったが、当時は個人で映画を作るのは難しく、また女性監督ということでもあまり受け入れられなかった。」と述懐。しかしこの作品の湯浅芳子の生き方に衝撃を受け、「昭和の時代に自分のセクシュアリティを自認して、『男が女を愛する』ように、私は女を愛する」と公言した女性がこの

日本にいたということにもすごい感銘を受けた」と述べ、「湯浅芳子という女性の存在を今の世の中に再認識させたい。」と、映画製作の決意の心情のほどを紹介。その後、この作品は金銭や映画会社など様々な問題を抱え一度は断念せざるをえなかったが、その後偶然、湯浅芳子の写真にめぐり合う運命的な出会いを果たし、「自分はやっぱり芳子に呼ばれているんだ」と認識。再度、作品に取り組むことを強く決意し、自分の生涯をかけて撮るしかない。」と感慨深げに振り返った。「この映画を女性監督という自分が撮ることで男性にはわからない女性ならではの視点で『女性の性』を描きたい。二人の肉体的な関係だけではなく魂のつながりを描き、老若男女、たくさんの人に見てもらうためにも一般映画にした。」と意図を説明、会場も納得の様子でした。

本日午後4時30分から 於: 3階会議室5

山上千恵子監督、 早川由美子監督を迎え トークサロン開催

映画祭ならではの機会です。是非、ご参加を!
▼コーディネーター 加藤和己
(あいち国際女性映画祭イベントディレクター)

▼定員40名 ※直接会場へお越しください。
(定員になり次第締め切ります。)

情報ライブラリーセミナー参加者募集中

無料

不安を解消! 親の介護、自分の老後

～事前に知っておきたい、
仕事と介護の両立の「戦略」～

平成23年 10月16日(日)13:30～15:30

講師 太田差恵子さん(介護・暮らしジャーナリスト)

※詳しくは、ちらしやウィルあいちホームページをご覧ください
<問い合わせ先> 愛知県女性総合センター指定管理者コンプレックスグループ
ウィルあいち情報ライブラリー 電話052-962-2510

リフレッシュ
エクササイズ教室

～いい汗かいて、毎日を健やかに～

- ★ソフトエアロビクス教室 料金2,800円/4回分
- ★子ども教室 <4歳～小学2年生> 料金2,500円/4回分
- ★中高年教室 <女性> 料金2,800円/4回分

場所 ウィルあいちフィットネススタジオ

<問い合わせ先>
(財)あいち男女共同参画財団総務情報課(フィットネス担当)
電話052-962-2505